

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0871000238		
法人名	有限会社ヘルスケア下妻		
事業所名	グループホームうらら		
所在地	茨城県下妻市石の宮24-1		
自己評価作成日	平成22年11月1日	評価結果市町村受理日	平成23年9月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://ibaraki-kouhyou.as.wakwak.ne.jp/kouhyou/infomationPublic.do?JCD=0871000238&amp;SCD=320">http://ibaraki-kouhyou.as.wakwak.ne.jp/kouhyou/infomationPublic.do?JCD=0871000238&amp;SCD=320</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人認知症ケア研究所
所在地	茨城県水戸市酒門町字千束4637-2
訪問調査日	平成23年7月12日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

うららでは、家庭的な環境の中で安心して生活が出来るように支援しております。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

国道から路地を中に入り、砂沼湖畔近くに隣接している。湖畔では、季節のあじさい、つつじ、あやめ祭りや花火大会、秋の収穫祭などが行われ参加している。二階建てのワンユニットとデイケアサービスが併設されている。散歩程度の距離の場所にミニ農園を持ち、季節の花々や野菜作りを行っている。利用者と共に収穫を行い、食卓に並べたりとのんびりとした環境作りがされている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	安心・信頼・満足の理念を掲げている	毎朝の申し送り時に唱和して理念の共有に努めている。利用者一人一人が、安心してその人らしく暮らせるように、また信頼と満足を持って穏やかに生活できるように支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区のイベントに参加したり清掃活動に参加したり地域交流に努めている	自治会に加入し、利用者と共に職員が奉仕作業や行事に参加している。地区の神社のお祭りに歩いて参加している。また、社会福祉協議会のボランティア団体に登録し、踊りやダンス、歌の交流をしている。以前は、中学生の職業体験、ヘルパー研修の受け入れを行っていた。	地域参加については、積極的に行われている。しかし、利用者の認知の進行や地域住民の生活環境の変化により、地域の方の受け入れ体制が行われていないようです。受け入れについての、環境作りを検討に期待します
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	学校などの体験ボランティアを受け入れたり町のイベントに参加したりして支援している	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催し意見交換をしながらサービス向上に活かしている(年6回開催)	定期的奇数月に年6回行われている。地区長、利用者家族、介護保険課、スタッフが参加している。震災後も行なわれ、行政の参加により震災状況の報告が行われている。参加されない家族には、面会時に説明している。	定期的に開催されサービス向上に努めています。今後は、推進会議を通して地域密着についての検討や研修会などより一層のサービス向上について検討していただきたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居状況報告や運営推進会議への参加等頂き協力関係が出来ている	推進会議を通して、毎月の入居状況の報告や連絡調整を密に行いまた、行政の方も積極的に訪問している。地域の連絡協議会の発足がない為、県の地域密着連絡協議会に定期的に参加し、情報交換を行っている。ケアマネジャー連絡協議会は定期的に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	すべてのスタッフが理解し明るい開放的なケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアについて、月1回のミーティングでマニュアル確認を行っている。車椅子の点検は随時行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	月1回のミーティングを利用し利用者様の尊厳を大切に言葉使い等も気を付ける様に話合っている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設でも高齢化に伴い必要性を感じ研修をしていきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い理解が得られる様に対応している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の利用者様との談話の中から又ご家族の面会時に気軽に意見・要望等を伝えて頂き反映させている	日々や毎週日曜日にゆとりの日として、利用者一人一人とゆっくり対話も持つ時間を作っている。対話を通して意見や要望は、職員間で共有し家族にも提供し支援に繋げている。また、家族の意見、要望については、面会時声かけを行い運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティング等で意見交換をして反映させている	月1回のミーティングで意見交換しているが、問題発生時には随時話あっている。研修報告会についても随時ミーティングにて行っている。今後は、接遇についての研修会を予定している。定期的に2グループ合同にて救急対応についての勉強会を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が働きやすい環境を整備しやりがいのある職場作りを努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ミーティング等で勉強会を行ったり研修会に参加する機会を作っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県内の協議会等に参加し意見交換を行っている		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回相談に時間をかけ対応している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回相談に時間をかけ対応している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネやスタッフとも話し合い必要としている支援を見極め対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔の様子を話して頂いたり、料理方法を教えて頂いたり和気藹々の関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	状況報告など密に連絡を取り合い、施設でのイベント等に参加頂いたりして共に支えあう関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族を通じ友人と面会して頂いたり、外出の機会を作り支援している	友人や家族の面会が常時行われている。遠方への外出については、家族と共に支援に繋げている。馴染みの美容室がボランティアにてきている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個人個人の個性を把握し利用者様同士の声かけあいや支えあえる関係作りに努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も気軽に相談して頂いたり、来所して下さるように支援している		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中から一人一人の利用者様の思いや希望の把握に努めている	ゆとりの時間からの情報や日々の支援を通して、思いや意向の把握をしている。スタッフ間では、日々の記録や特記事項に記載して情報の共有に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からお話して頂いたり本人様とのコミュニケーションの中からバックグラウンドを把握し日々のケアに努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェックやスタッフ間の申し送り等で状況を把握し全員が状況把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の意向やスタッフ間での話し合いの中から現状に即した介護計画を作成している	入居年数が長期の為、年に1回の見直しを行っている。随時スタッフ間で情報交換、モニタリング、計画立案を行い支援している。家族の同意は郵送にて行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌や個別の経過記録を記入し全員が共有、把握し実践、介護計画の見直しに生かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設のデイサービスを活かしての交流や遠足、外食の機会を作り対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察や消防への施設の存在報告や地域ボランティアへの参加		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	十分に話し合い、かかりつけ医への支援や信頼関係の構築に努めている	連携病院への移行は、紹介状を元に行っている。連携病院の受診は、月1回行っている。突発受診については、受診記録を使用して家族への電話連絡、スタッフ間で共有して支援している。認知症専門病院の連携について、契約書類に加えていく。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	関わりの中で気づいた事を職場内の看護師に相談したりして対応している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院までの経過報告を初め情報交換をしながら病院との信頼関係の構築に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	スタッフ間でも日々の状態把握に努め、ご家族とも十分に話し合い対応する様に努めている	契約時に、看取りについてや方向性について同意を得ている。看取りについて、要望があるがスタッフ間、連携病院、連携医師との協力体制が不十分なため現状は行っていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティングの中での勉強会や救急救命の講習を受講したりしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会いの避難訓練の実施や夜間を想定しての避難訓練等を実施している	日中夜間想定にて、年2回避難訓練を行っている。消防署立会いにより、具体的な搬送方法についても指導を受けている。近所の方の参加も行われている。近隣住民との協力体制については、具体的には行われていない。	施設の立地状況からは避難方法にやや厳しいと思われます。夜間の訓練や避難誘導の実際について再確認し検討していただき、推進会議時に避難訓練を開催しより具体的な対策について検討していただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使い等を年間目標に掲げ個人を尊重しプライバシーを損ねない様に努めている	長期入居の方が多く、慣れ合いにならないようにしている。利用者一人一人の、生活リズムを壊さないように個々のプライベートを大切にしている。プライバシー保護の同意書について、具体的な記載方法について検討して行く。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様から気軽に自分の思いを伝えて頂ける様にコミュニケーションを取り働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のライフスタイルを大切に出来る限り希望にそって支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に散髪したり、積極的に自分で衣服など選べる様に支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感のある食事や好みの料理などを工夫しながら自家栽培で採れた野菜などを利用し準備や調理など出来ることを共に行っている	メニューは、利用者と共に考えて決定している。準備や片付けについては、台所が狭い為に状況に応じて一緒に行っている。使い慣れた食器や箸を使っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取状況を把握し支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	健康状態に応じた方法で行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の状況を記録し、排泄パターンを把握し支援している	排泄パターンからリハビリパンツへの自立支援に繋げている。施設の立地状況から夜間は、簡易コールにて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	規則的な生活を送り排便習慣が確立できるように支援する		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間を問わず入浴が楽しめる様に体制を整え支援している	隣接するデイケアが午前中に使用し、午後に入浴支援している。しかし、希望により随時入浴できるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のライフスタイルを尊重し安心して休息睡眠できるように努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ミーティングを利用し副作用や用法などを把握し状態観察をしながら支援している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	集団生活の中での楽しみや役割をみだせるように支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の状態や希望を確認し外出の機会が取れる様に努めている	利用者の誕生日月に外食支援している。また、意向の把握から外食支援に繋げている。状況により利用者家族に依頼している。家族には、電話や面会時に報告している。報告内容は、個人記録に記載している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則的にはスタッフが管理しているが、希望に応じて使えるように支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話等いつでもやり取り出来る様に支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	どこでも休息出来る様な空間を作り生活感や季節感を取り入れた居心地の良い空間作りに努めている	リビングや廊下、台所には、気軽に腰を下ろせるように椅子が置いてある。季節感のあり家庭的な落ち着いた空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下やリビング等自由に過ごせる空間作りに努めている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用していた馴染みの物などを配置し居心地の良い空間作りに努めている	利用者一人一人の居室には、トイレが設置されているが、トイレの設置を感じさせない居室となっている。馴染みの家具や掲示物が掛けられ居心地の良い空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内の配置やトイレ、廊下等の手すりなど安全に出来る限り自立した生活が送れるように工夫している		

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	地元自治会などに加入させて頂き積極的に活動をさせて頂いているが、気軽に行き来するまでには至っていない。	隣近所の気軽に行き来できる関係を構築し協力関係を密に取れるようにする。	施設側から積極的に情報や声かけをして、働きかけていく。	12ヶ月
2	4	運営推進会議では、事業所の報告や行政やご家族、地元の方々との意見交換などをおこなっているが、さらに活発な意見交換が出来るようにしていく。	多くの方が自然に集まり意見交換が出来る関係や環境を作る	積極的に情報発信をして行き研修会やイベント等への参加などもすすめてサービス向上につなげていく。	12ヶ月
3	35	災害対策では、2階作りの建物である為避難誘導に不安がある。	災害対応マニュアルを徹底して、職員全員が慌てずに対応出来るようになる。	今まで以上に避難経路の確認や夜間での対応等各ミーティングなどで再確認していく。	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。